

あなたの使命とは？(21):「最も私らしい生き方」

メッセージノート 2023.5.14

エペソ 4:1-3¹ さて、主にある囚人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。
² 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、³ 平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。(新改訳)

パウロの心からの願い

- ・ 「勧めます(パラカレオ)」は、大切なことを温かく、個人的に、緊急なこととしてコミュニケーションするときの言葉。「励ます」「慰める」と訳される場合もある。「パラ」と傍で、「カレオ」はコミュニケーションする。決して上から目線ではない。
- ・ 人に気づく時(タイミング)がある。伝道者の書 3:1, 6「何事にも定まった時があります。何かを見つける時、大切にしまっておく時」(LB)
- ・ 「君がそのことに気づくまで、私からは何も言わずにずっと待っていたよ」(『しばし立ち止まり振り返る』太田和功一)。
- ・ 「召されたその召にふさわしく歩む」(1): クリスマンとして最もふさわしい生き方。神の驚くべき恩恵に与っていることに気づいた私たちが、神の偉大な計画を遂行する使命に生きる者となること。

召された者らしい生き方

- ・ コペルニクスの発想の転換が求められている: 世間では、「成功のための7の習慣(The 7 Habits of Highly Effective People)」(コーヴィイ)といった発想が浮かんでくるが、聖書とは異なった考えを示す。
- ・ 「謙遜」、「柔和」、「寛容(忍耐)」、「愛」という資質を身につけることが、最もクリスマンにふさわしい生き方である。
- ・ 強者の論理の落とし穴: 確かに私たちは変えられ成長していく。しかし、それは「私」が強くなっていくことなのか、それとも私の中に住み始められた「主」が強くなっていくことなのか？

イエスの見方

ルカ 10:17-20¹⁷ その後、七十人の弟子たちは喜び勇んで旅から帰って来て、イエスに報告しました。「あなたのお名前を使うと、悪霊どもでさえ言うことを聞きました。」¹⁸「そうです。まるでいなすまのように、サタンが天から落ちるのをわたしは見ました。¹⁹ あなたがたには、敵のあらゆる力に打ち勝ち、蛇やさそりを踏みつがす権威を与えてあります。だから、あなたがたに危害を加えるものなど、一つもないのです。²⁰ しかし、悪霊どもが言うことを聞くからといって、喜んではいけません。ただ、あなたがたの名前が天国の市民として記されていることを喜びなさい。」

- ・ クリスマンの成長とはどういうことか？何を目指し、どこに喜びを見出そうとしているだろうか？
- ・ 弟子たちは、自分の霊的(信仰的)な世界における影響力(勢力)の拡大が最大の関心事であったが、イエスは、自分のような汚れた者が赦され(続け)、用いていただけていることに驚きと感謝を持つことが、クリスマンとしてふさわしい生き方(健全な姿勢)であると教えている。

クリスマンとしての4つの特徴

1. 謙遜(タペイノフロスユネー)

- ・ 古代ギリシャ語には、今日の意味での「謙遜」という概念は存在していなかった。その当時「謙遜」とは、美德ではなく、臆病でへつらった、軽蔑すべきものとみなされていた。しかし、キリスト教の影響によって、その意味が劇的に変化し、新たに生み出された言葉である。

- ・ 人との比較の中で自分を見るのではなく、神の前でありのままの自分の姿に直面させられる時(正しいにご認識により)、私たちは自分の醜さと自己中心性という未熟さに打ちのめされる。

マタイ5:3-5³ 心の貧しさを知る謙遜な人は幸いです。神の国はそういう人に与えられるからです。⁴ 悲しみ嘆いている人は幸いです。そういう人は慰められるからです。⁵ 柔和で高ぶらない人は幸いです。全世界はそういう人のものだからです。(LB)

- ・ しかし、失敗を繰り返す者に寄り添い赦し励まし背中を押してくださる神に出会うたびに、謙遜な思いにさせられる。

2. 柔和(プラユテース)

- ・ 論語では「中庸は徳の至れるものなり」などと言われるが、古代ギリシャの哲人アリストテレスも同じことを言っていて、「柔和とは、極端な怒りと極端に怒らないこととの中間」と定義づけている。
- ・ プラユテースな人とは、いつも心さわしい時に怒り、間違った時には決して怒らない人。すなわち、他人が不当に扱われている時には怒るが、自分が不当な苦しみにあっても、耐えて怒らない姿勢。
- ・ また、この言葉は、よく訓練された制御された動物のことも指し、人間が持ち得るあらゆる欲望や本能、感情や心の傷などを完全に制御した人のことを意味する。しかし、完全な自制ができる人などいないから、もしたとすれば、それは神によって支えられ、助けられている時だけである。それは、徹底的に自分の弱さを自覚し、意識的に神に頼り続けている人にしてはじめてできる。

3. 寛容/忍耐(マクロトユミア)

- ・ 消して屈伏させられない不屈の精神、最後まで諦めないで耐え忍んで約束や報酬を獲得する精神を表している。まさに私たちの救いを信じて待っていてくださる主なる神の姿である。
- ・ 報復する力や実行する能力があるのに、決してそれを用いない精神という意味(クリュソムトモス)。これも、イエスの十字架への姿勢の中に遺憾無く示されている。

マタイ26:52-54⁵² ところが、イエスは彼を制して言われました。「剣をさやに納めなさい。剣を使う者は、自分もまた剣で殺されるのです。⁵³ わからないのですか。わたしが願いさえすれば、父が何万という天使を送って、わたしを守ってくださるのです。⁵⁴ しかし、もし今そんなことをしたら、こうなると書いてある聖書のことばが実現しないではありませんか。」

4. 愛(アガペー)

- ・ ギリシャ語「愛」に当たる言葉には、①エロース(男女間の愛で、性的な感情を含む愛情)。②フィリア(友情など、極めて親しい身近な間柄に育まれる愛情)。③ストルゲー(特に家族関係における愛情)。④アガペー(神の愛、慈愛)。
- ・ アガペーの愛によって人を見るとは、その人が何をなし得るか(利用価値)とか、何をしてくれるか(可能性)に関係なく、その人の最善となることしか望まないという意味。たとえその人が私に害を加え、非難するとしても、彼(女)に対して親切心以外のものを感じないという心。
- ・ この愛も神からくるのでなければ、私たちの中に自然と生まれてくるものではない。神に愛されたことのあるものにして初めて(イエスの優しさに日々触れて)、人に対して思いやりのある心で接することができるようになる。それは、最も私らしい生き方である。

一致

- ・ 以上の4つに共通した特徴は、神から与えられるものであり、自己中心的生き方を捨て、人を赦し受け入れること。
- ・ こうした4つが生み出すものが、本当の平和、一致である。今日ほどこの平和を必要としている時代はない。
- ・ こうした生き方は、この世の中にはない全く異質のものである。しかし、だからこそそこに魅力がある。これこそ召しに心さわしい生き方に他ならない。私たちは、そのために救われたとパウロは優しく諭す。
- ・ あなたは自分の人生を振り返ってみて、こうした4つの視点に関して何か思い当たることはないか？